

Arcserve UDP v6.5 製品 留意事項

本書は、Arcserve UDP v6.5 製品の留意事項について記載しております。製品ご使用の前に必ずお読みください。

— 目次 —

全製品共通	2
1. 導入前の留意事項	2
2. 導入時の留意事項	3
3. バックアップ時の留意事項	3
Arcserve UDP (Windows)	5
1. 導入前の留意事項	5
2. インストール／アンインストール時の留意事項	6
3. バックアップ時の留意事項	6
4. リストア時の留意事項	8
5. ベアメタル リカバリの留意事項	8
Arcserve UDP Agent (Linux)	9
1. 導入前の留意事項	9
2. インストール／アンインストール時の留意事項	10
3. バックアップ時の留意事項	11
4. ベアメタル リカバリの留意事項	11

本書の内容は、予告無く変更されることがあります。
富士通株式会社は、本書の内容に関して、いかなる保証もいたしません。
また、本書の内容に関連した、いかなる損害についてもその責任は負いません。

Arcserve のすべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、Arcserve(USA), LLC の商標、または登録商標です。
本書において言及したすべての商号、商標、サービスマークおよびロゴは、各々それらを所有する会社に帰属します。

本書の一部または全部を、無断で転載／転用／再配布することを禁じます。

Copyright 2017-2018 FUJITSU LIMITED

全製品共通

1. 導入前の留意事項

- (1) 本製品のライセンスキーおよびパッケージは、紛失されても再発行できません。大切に保管してください。
- (2) 本製品をインストールする前に、リリースノートを必ずお読みください。

Arcserve UDP v6.5 リリース ノート

http://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf_Files/HTML/Release%20Notes/

- (3) 本製品の動作要件・注意/制限事項・パッチモジュール・技術情報等については、arcserve Japan 合同会社（以下 Arcserve 社）の WEB サイトを参照してください。

Arcserve 社 WEB サイト

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pdWAC/arcserve-udp?language=ja>

- (4) 本製品のユーザガイド、およびオンラインヘルプは、Arcserve 社 WEB サイトを参照してください。
なお製品 GUI 上からユーザガイドやオンラインヘルプを表示するためには、インターネットに接続可能なネットワーク環境が必要です。

Arcserve Backup UDP v6.5 ナレッジセンター

<https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf.html>

- (5) 本商品に同梱されている、Arcserve Backup 製品および Arcserve Replication 製品は、富士通版として提供している製品および機能のみサポートします。サポートしない機能については、下記の WEB サイト内のそれぞれの製品内にある「留意事項」をご覧ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/catalog/>

- (6) 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

2. 導入時の留意事項

- (1) 製品のアクティベーションはサポートしていません。
インストール中に表示される、「Arcserve 製品アクティベーション」画面の各項目には何も入力せず、そのまま「スキップ」ボタンをクリックして続行してください。

Arcserve Unified Data Protection セットアップ

arcserve® unified data protection

使用許諾契約

製品アクティベーション

インストールの種類

デスティネーションフォルダ

環境設定

ファイアウォールの例外

メッセージ

サマリ

インストールの進捗状況

インストール レポート

製品情報

[リリースノート](#)

[ナレッジセンター](#)

Arcserve 製品アクティベーション

以下の情報を入力し、[次へ]をクリックすると、UDP の登録が開始されます。受け取った電子メール内のリンクから Arcserve UDP を登録し、オーダーのライセンスを Arcserve ポータルに追加します。

Arcserve UDP は、登録されるまで 30 日間試用モードで動作します。ここではアクティブ化をスキップし、後で製品の UI から登録することもできます。

* は必須フィールドを示しています

* 電子メール アドレス

名前

会社名

電話番号

* Order ID

* Fulfillment Number

Arcserve の製品向上プログラムに登録して、将来の Arcserve 製品の開発を支援します。詳細については、Arcserve の[プライバシーポリシー](#)を参照してください。

Arcserve がアクティベーション プロセスの一環として[マシン固有のデータ](#)を収集することに同意します。

バージョン 6.5 (ビルド 4175)

< 戻る(B)

次へ(F) >

スキップ

- (2) 製品の初回インストール後、30 日以内にライセンスキーを登録してください。
ライセンスキーを未登録の状態ですら 31 日を経過すると、ライセンスエラーにより製品は使用できなくなります。
- (3) ライセンス キーの登録操作は、閏日（2月29日）を避けて行ってください。

3. バックアップ時の留意事項

- (1) UDP コンソールの管理対象になっている UDP エージェントは、UDP コンソールからバックアップ設定を行います。UDP エージェントコンソールからは、個別にバックアップ設定を行うことはできません。
- (2) リムーバブルメディア（CD/DVD-ROM や USB メモリ）および USB ハードディスクはバックアップできません。
- (3) バックアップ先はハードディスクのみが使用可能です。CD-R、DVD-R、BD-R 等の光学メディアは、バックアップ先として使用できません。
- (4) クラウドサービス上の仮想マシンについては、バックアップ対象はユーザーデータボリュームのみをサポートします。システムボリュームのバックアップはサポートしていません。

- (5) バックアップ先のディスクの空き容量が不足すると以降のバックアップが失敗します。その場合はバックアップ運用を見直してください。
(見直し例)
- ・ バックアップ先を空き容量が十分にあるディスクに変更します。
 - ・ 復旧ポイントまたは復旧セットの保存数の設定を変更します。
- (6) ETERNUS DX/AF のアドバンスド・コピー機能によって複製されたボリュームに対するバックアップは、フルバックアップのみをサポートします。増分バックアップはサポートしていません。
- (7) Arcserve UDP 復旧ポイントサーバのデータストア (RPS データストア) として、FUJITSU Storage ETERNUS CS800 S6 デデュープアプライアンスを用いる場合、RPS データストア側では重複排除機能を設定しないでください。
- (8) UDP コンソールによるクラウドストレージへのファイル コピー設定時、バックアップ対象ノードが、マシン名で登録されている場合、プランの展開に失敗することがあります。バックアップ対象ノードを IP アドレスとして登録し直し、プランを再展開してください。
- (9) VMware 仮想マシンに対するエージェントレス バックアップは、以下の留意点があります。
- ・ vSphere 6.5 環境は、Arcserve UDP v6.5 Update 1 以降でサポートします。
(vSphere 6.5 の以下機能もサポートします)
 - 暗号化された仮想マシン
 - NVMe コントローラ
 - VSAN 6.5/VSAN 6.6/VVOL 2.0
 - ・ vSphere 5.0 以前の環境では、VDDK 6.5 の使用はサポートしていません。
- (10) Hyper-V の制限により、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 環境のサーバに対する、Hyper-V 仮想マシンへの仮想スタンバイ機能はサポートしていません。
- (11) アシユアード リカバリ タスクを使用する際には、バックアップ プランのバックアップ対象ノードに、異なる種類の OS (Windows/Linux) を混在させないでください。

Arcserve UDP (Windows)

1. 導入前の留意事項

- (1) 仮想環境（ゲスト OS）へ本製品を導入する際の動作要件については、以下のサイトをご参照ください。

Arcserve UDP 動作要件

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/products/udp/environment/>

- (2) Arcserve Backup および Arcserve Replication との連携機能は、本製品に同梱されている Arcserve Backup 製品および Arcserve Replication 製品でのみ動作します。
- (3) バックアップ先に指定されたボリュームは、自動的にバックアップ対象から除外されます。バックアップ先には、保護対象と異なるボリュームを用意してください。
- (4) クラウドストレージへのファイル コピー機能、ファイル アーカイブ機能は、以下の富士通クラウド オブジェクト ストレージをサポートします。
- ・ FUJITSU Cloud Service for OSS
 - ・ FUJITSU Cloud Service for Microsoft Azure
 - ・ FUJITSU Cloud Service for VMware NIFCLOUD
- ※ 別途富士通クラウドの契約が必要です。
- ※ 事前にストレージアカウントを作成し、アクセスキーを確認してください。
- ※ クラウド ストレージへコピーしたデータからのベアメタル リカバリは実施できません。
- ※ FUJITSU Cloud Service for OSS および FUJITSU Cloud Service for Microsoft Azure は、Arcserve UDP v6.5 Update 1 以降でサポートします。
- ※ FUJITSU Cloud Service for VMware NIFCLOUD は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以降でサポートします。
- (5) Hyper-V VDI 環境の仮想マシンに対するエージェントレス バックアップはサポートしていません。

2. インストール/アンインストール時の留意事項

- (1) Windows Server 2008 環境には、UDP コンソールをインストールすることはできません。
- (2) Arcserve UDP v5 からのアップグレードは、Update4 以降のバージョンがインストールされている環境が必要です。
- (3) Active Directory のドメインコントローラへ昇格させるメンバーサーバ、もしくはメンバーサーバへ降格させるドメインコントローラに本製品をインストールする場合、ドメインコントローラの昇降格を完了させてから、本製品をインストールしてください。
本製品のインストール後に、ドメインコントローラの昇降格を行った場合には、本製品の再インストールが必要です。
- (4) インストール時の [言語の選択] 画面では [日本語] を選択してください。
- (5) Windows Server 2008 環境の場合、UDP エージェントをインストール中にシステム再起動が要求されます。システム再起動後は自動でインストールが継続されます。
- (6) インスタント VM 機能において、Windows マシンを VMware 環境上の仮想マシンとして使用する場合、RPS サーバまたは Windows Agent がインストールされたサーバ上に「NFS クライアント」の機能がインストールされている必要があります。
- (7) Linux マシンでインスタント VM 機能を使用する場合、Linux バックアップサーバを構築した Linux 環境が必要になります。
- (8) Arcserve UDP 製品アンインストール時には以下のコンポーネントは自動的にアンインストールされません。
Arcserve UDP 製品アンインストール後、必要に応じて別途アンインストールしてください。
 - Microsoft SQL Server 2014 Express Edition (UDP データベース)
 - Microsoft .Net Framework 4
 - Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable Package
- (9) 本製品のアンインストール時、Arcserve 製品のライセンス管理に関するプログラムは削除されません。
- (10) 本製品がインストールされている環境で、Windows OS をアップグレードする場合は、事前に本製品をアンインストールし、OS のアップグレードが完了後、本製品を再インストールしてください (アンインストールせずに OS をアップグレードすると OS が起動しない場合があります)。

3. バックアップ時の留意事項

- (1) Windows Update の SoftwareDistribution フォルダはバックアップされません。
そのため、ベアメタル リカバリ後 Windows Update の更新履歴は復旧されません。

(2) Windows Server 2016 環境において、以下に該当するバックアップ／リストアは、サポートしていません。

- Hyper-V コンテナ または Windows コンテナ
- ストレージ スペース ダイレクト
- ストレージ レプリカを使用するサーバおよびクラスタ化ノード
- Nano サーバ
- シールドされた仮想マシンに対するエージェントレス バックアップ

なお、以下環境のバックアップ／リストアは、Arcserve UDP v6.5 Update 1 以降でサポートしています。

- SMB3 共有／スケールアウト ファイルサーバ
- Hyper-V Resilient Change Tracking (RCT)

(3) ファイル アーカイブ機能の使用は推奨しません。特に、システムやアプリケーションの動作に必要とされるファイルに対しては、ファイル アーカイブ機能は使用しないでください。

(4) Oracle データベースは Oracle VSS Writer を使用してオンライン バックアップが行われますが、Oracle Writer の復旧ポイントは作成されません（ボリュームの一部としてバックアップされます）。

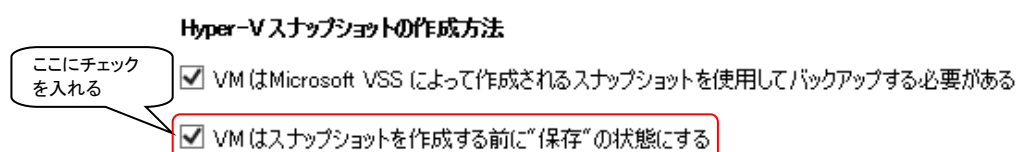
ファイル単位のリストアまたはベアメタル リカバリを実施したあとに、リカバリコマンドの実行が必要です。詳細については、製品マニュアル『Agent for Windows ユーザガイド』を参照してください。

(5) 仮想マシン単位のバックアップを行う場合は、Arcserve UDP のエージェントレスバックアップ機能を使用してください。UDP エージェントでは、Hyper-V ホスト上から仮想マシン単位のバックアップを行うことはできません。

(6) Hyper-V 2016 環境の仮想マシンに対するエージェントレス バックアップ運用を開始する前に、ホスト OS およびバックアップ対象となるゲスト OS 上の両方で Windows Update を実施し、Hyper-V 統合サービスをアップデートしてください。

(7) Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 の Hyper-V ホスト環境におけるエージェントレス バックアップジョブ実行時、Microsoft のオフライン スナップショット方式が使用されるため、一時的に仮想マシンを停止させる必要があります。

UDP コンソールで行うバックアップ プランの作成では、「ソース」タブ内にある以下の設定を行ってください。また、バックアップは業務時間外等、業務に支障のない時間帯に実施してください。



4. リストア時の留意事項

- (1) UDP コンソールからエージェントへログインすると「お使いのブラウザでは、JavaScript がサポートされていないか、無効に設定されています。」と表示される場合があります。Internet Explorer の「インターネット オプション」-「セキュリティ」でアクティブスクリプトを有効にしてください。
- (2) ReFS ボリュームへのリストア時、リストアされたファイルの圧縮属性は解除されます。また暗号化属性ファイルは、ReFS ボリュームへのリストアはスキップされます。
- (3) Hyper-V 仮想マシンをエージェントレス バックアップデータから復旧する際、仮想マシンは、リストア オプション「新しい仮想マシン インスタンス UUID を生成」設定に問わず、常に新規の UUID で復旧されます。

5. ベアメタル リカバリの留意事項

- (1) Arcserve UDP は、システムの複製・配布用途の製品ではありません。ベアメタル リカバリを利用したシステムの複製・配布運用はサポートしていません。
- (2) ベアメタル リカバリに使用する復旧用メディアの作成には、Windows 8/8.1/10 用の Windows アセスメント&デプロイメント キット (Windows ADK) を Microsoft 社の Web ページよりダウンロードし、インストールする必要があります。
- (3) Windows Server 2016 環境のベアメタル リカバリには、Windows 10 用の Windows ADK で作成した復旧用メディアを使用してください。
- (4) 環境に応じて、ベアメタル リカバリ実行時に必要となるデバイスドライバが異なります。
Windows ADK に標準で用意されているデバイスドライバで認識できないデバイスについては、ベアメタル リカバリ実行時に使用するデバイスドライバを別途用意する必要があります。
- (5) 物理マシンから仮想マシンへのベアメタル リカバリ (P2V : Physical to Virtual) 、インスタント VM、および、仮想スタンバイ機能は、すべてのハードウェア環境からの P2V を保証するものではありません。以下の点を留意の上、運用前に動作を確認ください。
 - ・本機能は、仮想マシンでの OS 起動までを提供します。アプリケーションの起動等その後の OS の動作は保証しません (特に ServerView Installation Manager 等のハードウェアに依存するソフトウェアやデバイスドライバの動作) 。
- (6) クラスタ環境 (MSFC/WSFC) に対するベアメタル リカバリ実行時は、共有ディスクや Cluster Shared Volume の接続を解除し、ローカルボリュームのみ復旧してください。
詳細は、製品マニュアル『Agent for Windows ユーザガイド』を参照してください。

- (7) ベアメタル リカバリ実行後、初回のシステム再起動時に、「Windows エラー回復処理」画面が表示される場合があります。
「Windows を通常起動する」を選択してください。
- (8) ベアメタル リカバリでは、記憶域スペースは復元されません。
ベアメタル リカバリ完了後、記憶域スペースを再作成してから、別途データをリストアしてください。
- (9) ベアメタル リカバリ実行後、バックアップ先ドライブにリストア対象ドライブへのジャンクション ポイントが作成される場合があります。
復旧後、残っているジャンクションを削除しても問題ありません。

Arcserve UDP Agent (Linux)

1. 導入前の留意事項

- (1) 本製品を使用するバックアップ運用には、エージェント バックアップサーバ (Linux マシン) が必要です。ただしインスタント VM 機能を使用しない場合は、バックアップ対象サーバと兼用しても構いません。
また、復旧ポイントサーバ、エージェント バックアップサーバ、バックアップ対象サーバは、それぞれ相互に名前解決が出来る必要があります。
- (2) バックアップ対象サーバのローカルボリュームをバックアップ先とする場合には、バックアップ対象ボリュームとは別のボリュームとする必要があります。
- (3) 以下に該当する環境のバックアップはサポートしていません。
 - ・クラスタ環境 (PRIMECLUSTER を含む)
 - ・暗号化ボリューム
 - ・Raw デバイス領域
- (4) 以下に該当する機能はサポートしていません。
 - ・クラウドストレージへの二次バックアップ
 - ・ファイルコピー
 - ・仮想スタンバイ
 - ・クラウドサービス上の仮想マシンに対するベアメタル リカバリ
 - ・Btrfs フォーマットを使用した環境に対するベアメタル リカバリ
- (5) 仮想環境 (ゲスト OS) へ本製品を導入する際の動作要件については、以下のサイトをご参照ください。

Arcserve UDP 動作要件

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/products/udp/environment/>

- (6) 継続的な増分バックアップを行う場合には、復旧ポイントサーバを使用する必要があります (UDP エージェント単独のバックアップでは、継続的な増分バックアップを行うことはできません)。

- (7) エージェント バックアップサーバ上では、**Btrfs** フォーマットを使用しないでください。

2. インストール/アンインストール時の留意事項

- (1) Preboot Execution Environment (PXE) ベースの ベアメタル リカバリを要件とする場合、エージェント バックアップサーバとバックアップ対象ノードは、同じサブネット上に配置する必要があります。

- (2) 事前に以下パッケージをインストールしてください。

バックアップサーバ側

- nfs-utils
- cifs-utils
- sshd (SSH デーモン)
- Perl
- genisoimage
- squashfs-tools (※CentOS ベースの LiveCD を作成する場合)

バックアップ対象サーバ

- nfs-utils
- cifs-utils
- sshd (SSH デーモン)
- Perl

- (3) インストール前に以下コマンドが実行可能であることを確認してください。

- rpc.statd
- mkisofs
- mount.nfs
- mount.cifs

- (4) 「Arcserve_Unified_Data_Protection_Agent_Linux.bin」に実行権限がない場合、以下のコマンドで実行権限を付与してください。

```
chmod 755 arcserve_Unified_Data_Protection_Agent_Linux.bin
```

- (5) インストール中の言語選択では「2」を選択してください。

- (6) Firewall 使用環境では以下ポートを開放してください。

エージェント バックアップサーバ側

- TCP ポート:22 (SSH サーバ)
- TCP ポート:8014 (エージェント Web サービス)
- TCP ポート:8016 (インスタント BMR サービス)
- UDP ポート:67 (bootp サーバ)
- UDP ポート:69 (TFTP サーバ)

バックアップ対象サーバ

- TCP ポート:22 (SSH サーバ)

3. バックアップ時の留意事項

- (1) NFS 共有ディレクトリをバックアップ先として使用する場合、NFS 共有ディレクトリに root ユーザの書き込みアクセス権を割り当て、エージェント バックアップサーバ上の NFS サービスを起動してください。
- (2) 復旧ポイントサーバをバックアップ先としない運用では、バックアップ先のディスク容量は、設定する復旧セット数+1分のフルバックアップ容量分が必要となります。

4. ベアメタル リカバリの留意事項

- (1) Cent OS ベース LiveCD の作成には、64bit 版の Cent OS Live CD を使用してください。
- (2) Bootable Live CD を使用した PXE ブート方式の場合、事前に復旧対象サーバのネットワークインターフェースカードの MAC アドレスを取得する必要があります。
- (3) 物理マシンから仮想マシンへのベアメタル リカバリ (P2V : Physical to Virtual) 、および、インスタント VM は、すべてのハードウェア環境からの P2V を保証するものではありません。以下の点を留意の上、運用前に動作を確認ください。
 - ・本機能は、仮想マシンでの OS 起動までを提供します。アプリケーションの起動等その後の OS の動作は保証しません。